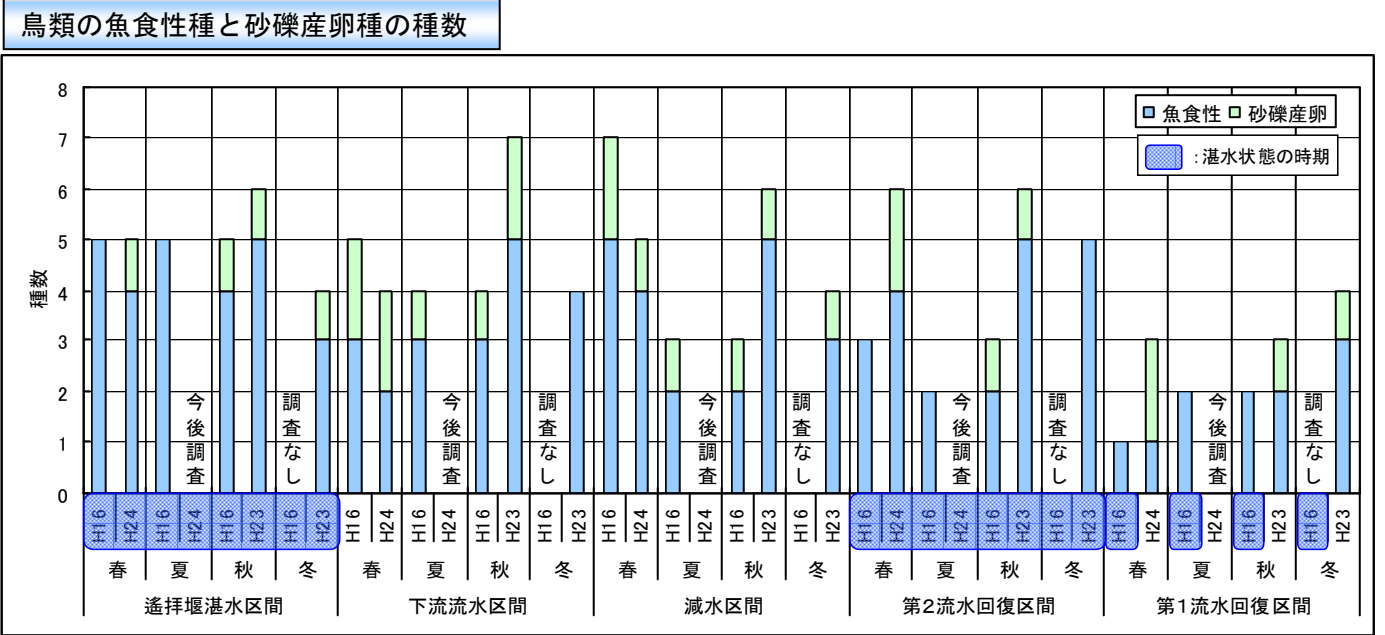
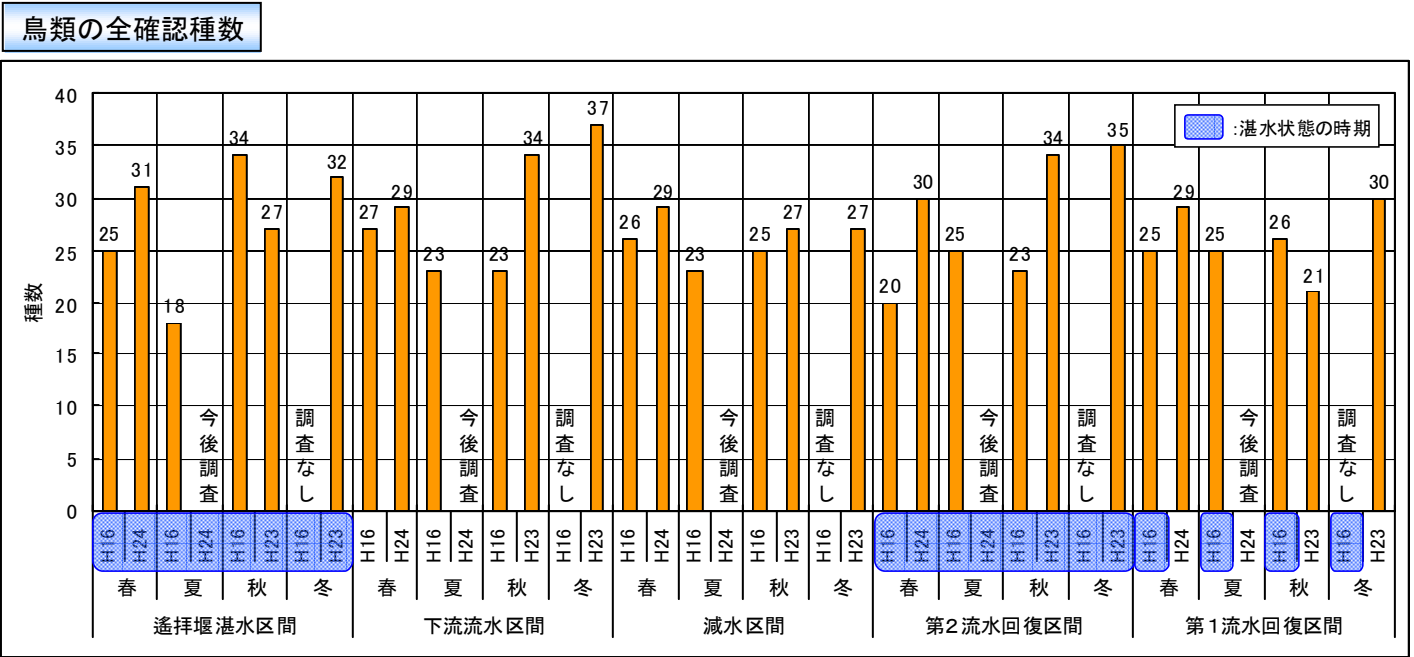
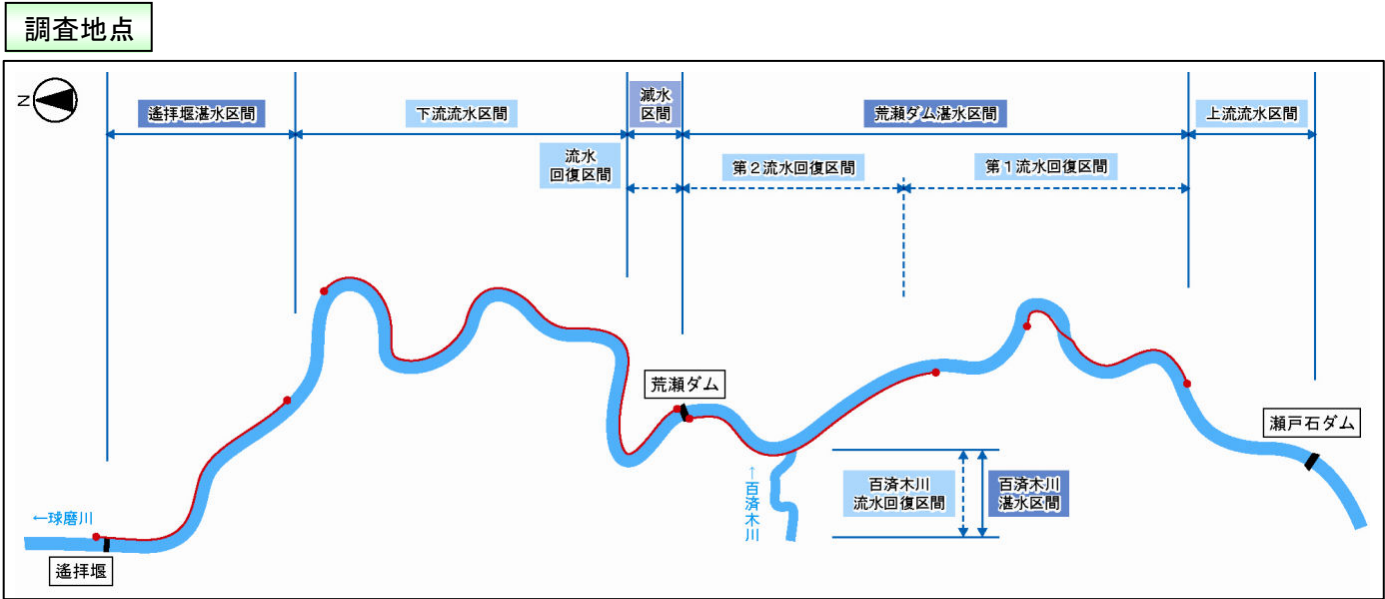


(6) 動物

1) 鳥類

評価項目	視点	評価概要
A これまでの変化状況	全確認種数	18～37 種の範囲にあり、地点間の違いは殆どない。
	魚食性種と砂礫産卵種の種数	魚食性種は 1～5 種、砂礫産卵種は 0～2 種の範囲にあり、魚食性種では第 1 流水回復区間が少ない傾向にある。
B ゲート開放前後の変化状況	全確認種数	増減について一定のパターンは見出せない。
	魚食性種と砂礫産卵種の種数	魚食性の鳥類の種数及び砂礫地で産卵する鳥類の種数ともに、H16 と比較して、顕著な増減のパターンは見出せない。



【用語の解説】

- ・鳥類の魚食性種：魚類を主な餌とする肉食性の鳥類。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し河岸の浅瀬が多くなると、ここに集まる魚類を狙って魚食性の鳥類が多くなるとされる。代表例として、アオサギ等のサギ類、ミサゴ、カワウ、カワセミ、カワアイサが挙げられる。
- ・鳥類の砂礫産卵種：砂礫地で巣をつくり産卵する鳥類。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し砂礫河原が多くなると、ここで繁殖する鳥類が多くなるとされる。代表例として、イカルチドリ等のチドリ類、イソシギ、コアジサシが挙げられる。

項 目	遙拝堰湛水区間								下流流水区間								減水区間				第2流水回復区間								第1流水回復区間																	
	春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬		春		夏		秋		冬							
	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H24	H16	H24	H16	H23	H16	H24	H16	H23								
魚食性	カワウ		○(3)			○	○(87)							○	○(6)			○(6)		○(1)					○	○(5)			○(19)					○	○(2)			○(21)				○	○(1)			○(11)
	ゴイサギ	○			○				○			○					○	○(1)						○					○						○(1)						○(1)					
	ササゴイ	○			○				○	○(2)	○				○(2)				○	○(2)	○					○(1)			○		○(2)	○				○										
	ダイサギ	○	○(3)		○		○										○																													
	コサギ	○	○(4)		○		○(5)									○	○(2)														○(3)			○(3)			○(2)									
	アオサギ	○	○(16)		○		○	○(17)		○(4)	○	○(3)	○		○	○(14)		○(6)	○	○(4)	○				○	○(4)		○	○(3)	○			○	○(3)		○(1)		○(2)	○			○	○(2)		○(4)	
	ミサゴ						○(1)		○(1)						○(2)		○(3)													○(2)	○(2)		○(3)		○(3)											
砂礫産卵									○	○(2)	○					○			○											○(3)							○(2)									
		○(1)				○	○(5)		○(1)	○	○(2)				○	○(5)			○	○(3)					○	○(2)			○(1)		○(3)			○	○(2)							○(1)		○(1)		

【注1】H23及びH24の括弧内の数字は個体数を表す。H16は個体数データなし。